

令和元年度 病害虫発生予察 注意報第1号

令和元年5月13日

千葉県農林総合研究センター長

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)多発生のおそれ

1. 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：水稻，スクミリンゴガイ
- (2) 発生地域：県内全域（主に九十九里沿岸部）
- (3) 発生量：多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 5月上旬に行った水田における見取り調査では、スクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）の被害株率は1.03%（平年0.14%）と過去10年と比較して最も高く、1㎡当たり平均個体数は0.53個（平年0.10個）と最も多かった（図1）。
- (2) 発生地点率は12.1%（平年7.1%）と過去10年と比較して最も高かった（図2）。
- (3) 平成30年12月から平成31年2月の平均気温は7.6℃と過去10年と比較して4番目に高く、越冬中のスクミリンゴガイが低温により死亡しにくい条件であった。
- (4) スクミリンゴガイは移植後間もない4葉期までのイネを主に食害するため、スクミリンゴガイの発生地で5月以降に移植した水田及びこれから移植を行う水田では特に注意を要する。

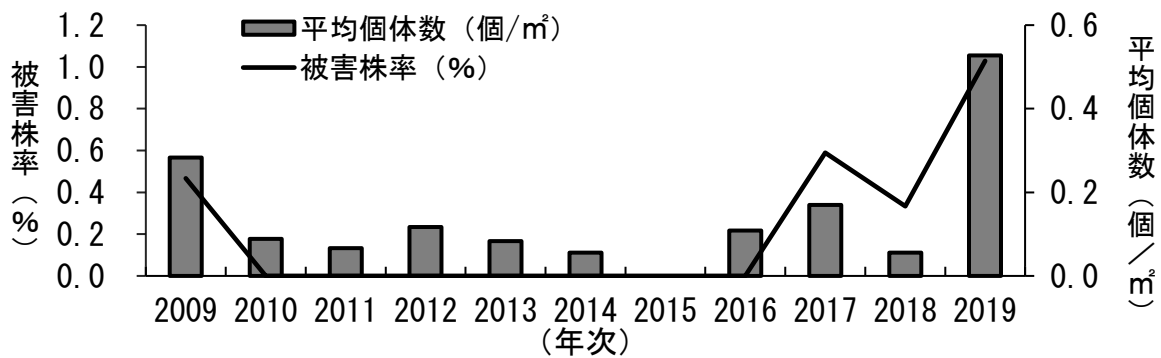


図1 スクミリンゴガイの被害株率と貝密度の推移(5月上旬)

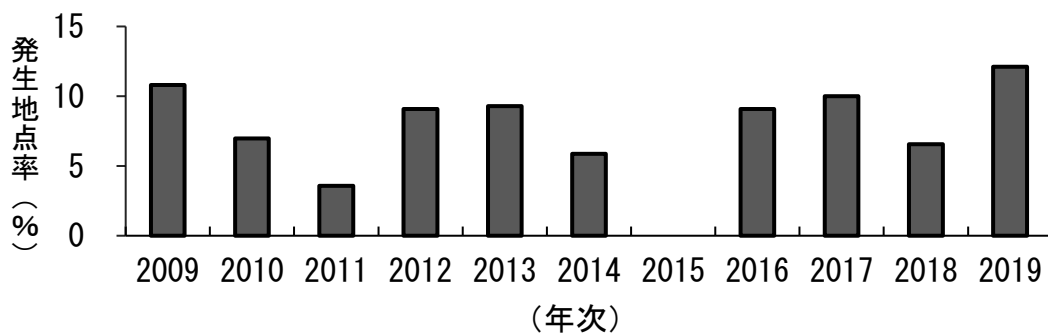


図2 発生地点率の推移(5月上旬)

3. 定植期～定植後の防除対策

(1) 水深4cm以下の浅水管理

- ・スクミリンゴガイの主な加害時期は、イネの葉数が4葉期に達するまでの移植後2～3週間である。この期間の貝の移動を抑制するために、4cm以下の浅水で管理する。

(2) 水路からの侵入防止

- ・水口に目合い5～10mmの網袋を設置し、侵入を防止する。

(3) 貝や卵の捕殺

- ・水田や水路の貝は捕殺する。卵は捕殺または水中に払い落とす。貝に寄生虫が感染している可能性があるため、素手で触れない。

(4) 薬剤による防除

- ・パダン粒剤4の苗箱処理は効果が十分でないことがあるので、他の対策を併せて行う。
- ・貝の発生が多い田では本田防除を行う。薬剤は湛水散布とし、止水期間は1週間程度とする。
- ・食毒による殺貝剤（スクミノン、スクミンベイト3）と行動抑制等により食害を防止する剤（スクミハンター、パダン粒剤4）の併用は行動抑制によって殺貝剤の効果が低下する。このため、併用する場合は食毒剤を処理してから7日後以降に食害防止剤を処理し、食毒剤を処理する前に食害防止剤を処理することは控える。

表 主な防除薬剤

薬剤名	有効成分	使用時期/使用回数	使用量	備考
(苗箱処理剤) パダン粒剤4	カルタップ	播種前又は移植当日 /1回以内	60～100g/箱	食害防止
(本田処理剤) スクミノン	メタアルデヒド	収穫60日前/2回以内	1～4kg/10a	殺貝(食毒剤)
スクミンベイト3	燐酸第二鉄	発生時	2～4kg/10a	殺貝・食害防止(食毒剤)
キタジnP粒剤	IBP	本田初期/2回以内	3～5kg/10a	殺貝効果
スクミハンター	チオシクラム	収穫45日前/3回以内	1～2kg/10a	食害防止
パダン粒剤4	カルタップ	収穫30日前/6回以内*注	4kg/10a	食害防止

*注 パダン粒剤4の使用回数は苗箱処理の回数を含む

病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

薬剤の選定については最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 808 TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

e-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp